

# 大山の森だより

2021年 秋号

## ブナの森の甘い香り



秋も深まり初雪もそろそろと考え始めるころ、葉をすっかり落としたブナの森で、花のような甘い香りがどこからともなく漂ってくることがあります。

それはブナの枯れ木や倒木に重なり合って生える白色のキノコ、「ブナハリタケ」の香りです。

香りの元を探っていくと、倒木にびっしりと張り付いた白いキノコを発見することができます。ブナハリタケは重なるように群生するので見つけると大量に収穫できます。

かさの下が柔らかい針状になっているためブナハリタケと名前が付いたようですが、ブナの倒木にびっしりと張り付くからという説もあります。ブナカノカ、カノカという地方名もあり、大山周辺では※カノシタと呼ばれています。カノシタとは鹿の舌という意味で、鹿の舌が針状になっていることからだそうです。

一般にはあまり知られていませんが、秋のブナの森を代表するおいしいキノコです。※カノシタという針葉樹の森に生える別種のキノコも存在します。

傘の裏が針状に



**【ミニコラム】**：島根県東部や鳥取県西部ではキノコ狩りのことを「たけとり」と呼んでいます。地元の方が「たけとりに行く」といった場合、目的は薫り高い「コウタケ(香茸)」であることが多いですが、大山周辺では大きなミズナラの根元に生える「マイタケ(舞茸)」です。大山の周辺ではあまり「コウタケ(香茸)」が採れません。

## 夏期 自然ふれあい事業 活動報告

### ○南光河原 水生生物(カジカガエル)観察会

開催日:7月3日(土)



大山寺集落の横を流れる佐陀川の南光河原で、カジカガエルを中心とした水生生物観察会を開催しました。



すぐに溪流の石の上にいるカジカガエルのオスを発見。

ひとしきり撮影した後、捕獲して観察しました。

カジカガエルを間近で見た参加者はおらず、貴重な体験を喜んでいました。

■自然公園財団では、季節ごとに観察会などを開催しています。

予約なしでも参加できるイベントもありますので、是非ご参加ください。

裏面にイベント情報を掲載しています。

# 大山で秋に香る植物

枯れて香る植物3種

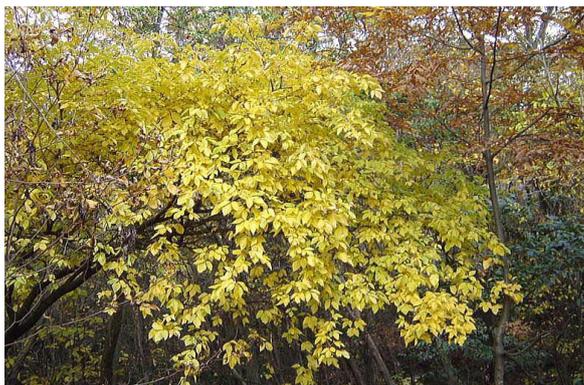


## カツラ

北海道から九州まで日本全国の山地に見られるカツラ科の落葉高木で、奥山の谷や沢沿いに多い樹木です。樹高は30m近くに達します。左右対称の端整な樹形や新緑と黄葉の美しさから、万葉集や古事記にもその名が登場し、日本の銘木として海外でも知られています。カツラの葉が甘い香り、キャラメルのような香りを出すことは広く知られています。ただし緑葉には少なく、黄葉、紅葉となるにつれて香りが強くなります。個人的な感覚として落葉して雨を浴びた後に強く

香る気がします。ショウユノキという呼称もあって、確かに醤油のようでもあり、人によって印象は違うようです。芳香成分は、葉に含まれるマルトールという食品添加物にも使われる物質です。カツラの木の名前の由来には諸説あり、「香出(カツ)」の転訛とする説が有力です。

香りとは関係がありませんが、山陰では製鉄の神である金屋子神の御神木として、タタラ場(製鉄所)の近くに必ず植えたそうです。



## タカノツメ

ウコギ科タカノツメ属の落葉小高木です。北海道の北部及び沖縄を除いた全国の丘陵や山地に自生しています。冬芽が鷹の爪を連想させるとして名付けられました。若い芽が山菜として食用になります。トウガラシ(タカノツメ)と違って辛くありません。葉は互生の掌状複葉で短枝の先に集まってつきます。小葉は通常3枚。秋の黄葉は、淡い黄色になり、カツラと同じく落ち葉が香ります。カツラの落ち葉

の香りをもっと甘くしたような心地よい香りです。

実はタカノツメの葉が香ることは最近まで知りませんでした。秋の森でキャラメルのような甘い香りを感じ、カツラの木を探したのに見つからず不思議に思ったことが何度もありました。



## ナギナタコウジュ

シソ科ナギナタコウジュ属に分類される、高さ30~60cmの一年生草本の植物です。北海道から九州の山地や道ばたに生え、全体に強い香りがします。秋に枝の頂や葉腋から花穂がでて、紫色の花が一方向にだけ向いて一列に咲く姿は確かにナギナタのようです。

コウジュとは生薬の香薷(こうじゅ)からきています。薬用植物で、利尿や血行をよくして発汗を促進する作用があるそうです。秋の開花期に、地上部の全草を刈り取って、風通しのよいところに吊して陰干して使用するか。

個人的な感覚ですが、枯れてからのほうが香りを強く感じます。ただし強烈すぎてあまり良い香りに感じられません。触れただけで香りたち、手にも香りに移ります。





# カメムシ「ハットウジ」の秘密



クサギカメムシ



秋が深くなると、山里では家の中にカメムシ(クサギカメムシやマルカメムシ)が知らぬ間に入り込んできます。越冬のために洗濯物やタンスの隙間に入り込むのですが、ふとした拍子に触ってしまい、あたりに悪臭が漂います。この悪臭からカメムシをヘコキムシとかヘクサムシと呼ぶ地方は多いです。しかし大山周辺(鳥取県と島根県・広島県・岡山県の一部)ではカメムシをハットウジと呼びます。この変わった呼び名は八塔寺という岡山県にある天台宗の古刹が由来と言われています。このお寺の僧侶がかつて托鉢や薬を売る目的で、家々を訪問して歩いていましたが、修業のために何日もお風呂に入らず托鉢していたので臭かった。または売っている張り薬が大変臭かったため、カメムシも八塔寺と呼ぶようになったとか。

ちなみにおとなり島根県の出雲地方ではオジョロサンと呼ぶそうです。これは「お嬢さん」が変化したものと言われ、丁寧な呼びかけをすると悪いにおいを出さない(おならをしない)と考えられていたためとか。

また大山では「カメムシが多い年は、大雪になる…」とも言われています。そういえば近年、家の中で越冬するカメムシが少ないような気がします。今年の雪はどうでしょうか？

## ○カメムシの呼び名

カメムシは全国で様々な呼び名があります。

正式な名称であるカメムシは姿かたちが亀の甲羅に似た虫であることに基づいています。

方言で特に多いのがヘクサムシ、ヘッピームシなどにおいに関係した呼び名です。

またオヒメサマやヒメサンムシ、ジョロウムシなどにおいを出さないように、あえて美しい女性の呼び名を付けた方言名も、特に日本海側で聞かれます。

長野県南部ではトモコちゃんと呼ぶそうですが、長野県ではともこさんに何があったのでしょうか？気になります。

また兵庫県の一部ではジョンソンと呼ぶそうです。これは消臭剤や殺虫剤で有名なジョンソンという会社から広まったそうで、最近の呼び方です。

九州から島根県西部にかけては、フウまたはホウ、ホウムシという呼び方が根付いています。これはカメムシの古い呼び名(ホホ)から来たものと推測され、古くはホホヅキと呼ばれていた植物のホオズキは、カメムシ(ホオズキカメムシ)が付きやすいことからきているという説があります。

皆さんの地元ではカメムシをどう呼んでいますか？

ちなみにカメムシ類は日本だけでも約 1,300 種います。

## ○カメムシが臭いのは

カメムシはなぜ不快なおいを出すのでしょうか。不快なおいで鳥などに食べられないようにする以外に、臭いでコミュニケーションをとっているのではないかとされています。カメムシは集団生活をする種も多く、弱いにおいで集まったり、強いにおいで近くの仲間に危険を知らせるのだそうです。クサギカメムシなどにはにおいを出す前に触角を小刻みに震わせ警戒しているのが分かります。においはお尻からではなく後ろ脚の付け根付近から出ます。

## ♥愛あるカメムシ「エサキモンキツ/カメムシ」



背中にハート形のしるしがある特徴的なツノカメムシです。両肩にあるでっぱりがツノカメムシの特徴です。幼虫は主にミズキを餌

としており、大山でも普通に見かけます。メスは卵や小さい幼虫を命がけで守ります。背中のハートは伊達じゃない。ただくさいにおいは出します



# ーイベント情報（10月～11月）ー



## ■自然公園財団のイベント

<p><b>○大山寺 阿弥陀堂周辺の謎の遺跡を探る</b>                  開催日：10月16日(土) 9:00～12:00頃                  会場：阿弥陀堂周辺                  集合場所：自然公園財団事務所前                  参加費：1500円</p>	<p>木々が色づき始める大山のブナの森。大山寺周辺の森には古い寺院跡が眠っています。秋の気配を楽しみながら知られざる古代遺跡を巡ります。打ち捨てられた五輪塔や石段などに諸行無常を感じる自然観察会です。                  定員：15名 <span style="float:right">歴史探訪</span></p>
<p><b>○幻の弥山禪定の道を歩く ※健脚向き</b>                  開催日：10月30日(土) 9:00～13:00頃                  会場：大山の古い登山道(神事の道)                  集合場所：自然公園財団事務所前                  参加費：1500円 【お弁当持参】</p>	<p>江戸時代の大山の重要な神事「弥山禪定」で使用された登山道を歩きます。選ばれた僧侶だけが大山山頂(弥山)に登ることが許された道で現在は失われています。整備されていない道なので山登りに慣れた方限定。                  定員：10名 <span style="float:right">歴史探訪</span></p>
<p><b>○大山寺 金門周辺の謎の遺跡を探る</b>                  開催日：11月20日(土) 9:00～12:00頃                  会場：大山寺金門周辺                  集合場所：自然公園財団事務所前                  参加費：1500円</p>	<p>かつて巨大な扁額が掲げられた金門周辺には忘れ去られた遺跡が点在します。風穴と呼ばれた巨大な氷室の底に下りたり、御旅所跡と思われる高台の平坦地から美保湾を見下ろします。尾根上の求聞持堂跡にも。                  定員：15名 <span style="float:right">歴史探訪</span></p>

## 大山秋色週間 10月20日～11月5日



大山では、例年10月下旬から11月上旬にかけて、ブナやナラの木々を中心に、山全体が秋色に染まり、ドライブや登山、散策といったアクティビティと一緒に紅葉狩りが楽しめます。

※10月24日には大山寺で採灯大護摩法要が行われる(予定)

## 県道倉吉江府溝口線(柵水高原～鍵掛峠)通行止のお知らせ

【通行止期間】令和3年8月18日(水)～令和3年10月22日(金)

柵水高原からは、う回路として岸本江府線・大山広域農道をご利用ください。

奥大山スキー場方面から鍵掛峠展望駐車場へ行くことができます。

【問い合わせ先】鳥取県西部総合事務所米子県土整備局

道路都市課 TEL:0859-31-9731



一般財団法人 自然公園財団 鳥取支部 大山事業地

〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山40-33

大山ナショナルパークセンター 1階

TEL:0859-52-2165 FAX:0859-52-2370

URL <http://www.bes.or.jp/daisen/>

